

令和 5 年度

熊野町教育委員会事務点検・評価報告書
(令和 4 年度事業)

熊野町教育委員会

目 次

I	教育委員会の点検・評価制度	
1	点検・評価の趣旨	1
II	教育委員会の活動状況	
1	教育長	2
2	教育委員会委員	2
3	教育委員会会議の開催実績	2
4	教育委員の活動実績	3
III	主要施策の点検・評価	
1	点検・評価	5
(1)	手順	5
(2)	対象事業の選定	5
(3)	実施方法	5
(4)	評価の判断基準	6
2	学識経験者の知見の活用	6
3	各施策の点検・評価	7
(1)	熊野町教育行政施策の方針	7
(2)	基本施策ごとの実績	9
	【基本施策1】学校教育の推進	9
	熊野町「学びの変革」推進事業	11
	小学校低学年書道科指導事業	14
	【基本施策2】生涯学習の振興	16
	生涯学習振興事業	17
	図書館運営事業	20
	くまどく推進事業	22
	【基本施策3】文化・芸術の振興	24
	文化芸術振興事業	25
	【基本施策4】スポーツの振興	27
	スポーツ振興事業	28

I 教育委員会の点検・評価制度

1 点検・評価の趣旨

教育委員会の責任を明確にするため、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

この報告書は、同法の規定に基づき、令和4年度の熊野町教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、教育に関し学識経験を有する者の意見を付して報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育長

職名	氏名	任期	備考
教育長	平岡弘資	R 3. 4. 1～R 6. 3. 31	

※ 任期は3年

2 教育委員会委員

職名	氏名	任期	備考
委員	大竹美枝子	R 2. 10. 1～R 6. 9. 30	4期目
委員	佛圓悦子	R 4. 10. 1～R 8. 9. 30	3期目
委員	佛圓弘修	R 4. 10. 1～R 8. 9. 30	3期目
委員	久保田章央	R 1. 10. 1～R 5. 9. 30	1期目（保護者）

※ 任期は現委員としての任期（4年）

3 教育委員会会議の開催実績

「熊野町教育委員会会議規則」において、定例会を毎月1回、必要がある場合には臨時会を開催することを定めています。

令和4年度においては、定例会を12回、臨時会を1回開催しました。

日時	議案・報告等	題目
R4. 4. 6	議案第18号	選挙運動のためにする個人演説会等の施設の公営のために納付すべき費用の額を定める規程の一部を改正する規程案について
	議案第19号	熊野町公民館分館長の選任の同意について
	議案第20号	熊野町立学校運営協議会委員の選任の同意について
R4. 5. 10	報告第1号	熊野町修学旅行中止等に伴うキャンセル料等補助金交付要綱の制定について
	議案第21号	熊野町教育支援委員会委員の選任の同意について
	議案第22号	熊野町教育委員会評価委員の選任の同意について
R4. 6. 3	議案第23号	令和5年度に小・中学校で使用する教科用図書のうち、学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択基本方針案について
R4. 7. 1		（教育委員会定例会）
R4. 8. 1	議案第24号	令和5年度使用熊野町立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について
	議案第25号	令和4年度教育委員会事務点検・評価（令和3年度事業）について
R4. 9. 1	議案第26号	熊野町立学校給食審議会委員の選任の同意について
R4. 10. 4	報告第2号	町立学校の教育職員の在校等時間の上限等に関する方針について
	議案第27号	熊野町社会教育委員の選任の同意について
	議案第28号	熊野町公民館運営審議会委員の選任の同意について

R4. 11. 2	議案第 29 号	令和 4 年度熊野町学校給食費支援補助金交付要綱の制定について
R4. 12. 1		(教育委員会定例会)
R5. 1. 5	報告第 1 号	令和 4 年度熊野町立学校薬剤師の選任について
R5. 2. 1	議案第 1 号	令和 5 年度熊野町教育行政施策の方針について
	議案第 2 号	令和 5 年第 1 回熊野町議会定例会に提案される教育委員会関係の議案に対する意見について 「熊野町郷土館設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例案」
	議案第 3 号	令和 5 年第 1 回熊野町議会定例会に提案される教育委員会関係の議案に対する意見について 「筆の里工房の博物館への位置付けに関する関係条例の整理に関する条例案」
R5. 3. 3	議案第 4 号	熊野町教育委員会事務局職員の職の設置に関する規則の一部改正について
	議案第 5 号	熊野町立学校職員服務規程の一部改正について
	議案第 6 号	熊野町立小中学校管理職の内申について
<u>R5. 3. 15</u>	報告第 2 号	教育に関する事務に係る条例案に対する意見について
	報告第 3 号	熊野町立学校教職員人事について
	議案第 7 号	令和 5 年度熊野町立学校医等の選任同意について
	議案第 8 号	令和 5 年度熊野町立学校保健管理医の選任同意について
	議案第 9 号	令和 5 年度使用熊野町立小中学校特別支援学級教科用図書追加採択について
	議案第 10 号	熊野町スポーツ推進計画について

※ 下線のあるもの は教育委員会 臨時会を示す

4 教育委員の活動実績

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制限がある中、各種会議・研修会への参加や学校等の教育機関訪問、行事への出席・参加を行い、各機関の状況把握に努め、意見交換・助言を行いました。

日 時	会議・研修会 等	開催場所 等
R4. 4. 20	幼保小中高連携教育推進協議会	熊野第三小学校
R4. 5. 1	熊野町成人を祝う会	熊野町民会館
R4. 5. 10	熊野町総合教育会議	熊野町役場
R4. 6. 1	防災・減災教育研修会	熊野町民会館
R4. 6. 10	幼保小中高連携教育推進協議会	熊野第一小学校
R4. 6. 13	幼保小中高連携教育推進協議会	熊野第二小学校
R4. 6. 21	幼保小中高連携教育推進協議会	熊野第四小学校
R4. 6. 22	幼保小中高連携教育推進協議会	熊野第三小学校
R4. 7. 19	熊野町教育協議会	熊野町役場
R4. 7. 29	幼保小中高連携教育推進協議会	くまの中央保育園

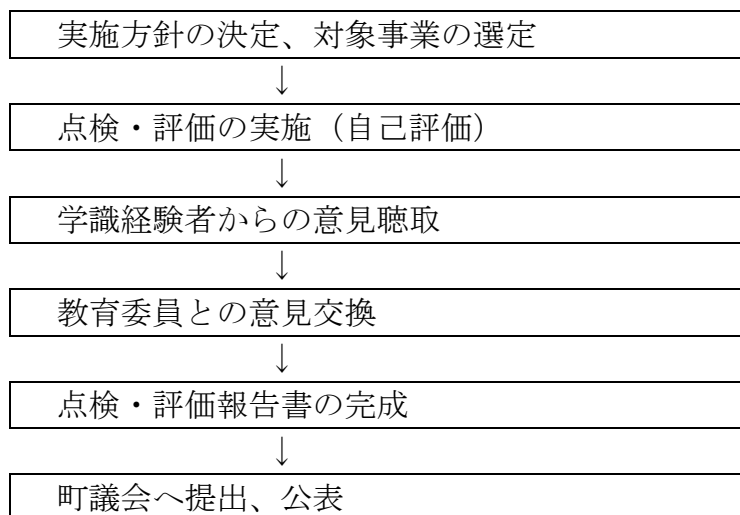
R4. 8. 4	学校と地域の連携強化に向けた研修会	熊野町民会館
R4. 9. 8	市町村教育長・教育委員研究協議会(オンライン)	熊野町役場
R4. 10. 17	道徳教育推進拠点地域事業 熊野東中学校区 道徳教育公開研究会	熊野東中学校
R4. 10. 28	熊野第四小学校 体育科授業研究会	熊野第四小学校
R4. 10. 31	女性教育委員グループ研修会	広島叡智学園
R4. 11. 1	探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業 熊野中学校区 研究推進地域公開研究会	熊野中学校 熊野第一・第三小学校
R5. 1. 23	学校訪問	熊野第一小学校 熊野中学校
R5. 1. 27	学校訪問	熊野第三小学校 熊野第四小学校
R5. 1. 30	学校訪問	熊野第二小学校 熊野東中学校
R5. 2. 3	広島県市町教育委員会教育委員研修会	広島ガーデンパレス

Ⅲ 主要施策の点検・評価

1 点検・評価

(1) 手順

令和4年度に教育委員会が執行した事務事業について、次の手順で点検及び評価を行いました。



(2) 対象事業の選定

第2次熊野町教育大綱に示した基本施策ごとに「取組と成果」「課題」「今後の方向性」を整理したうえで、令和4年度における点検・評価対象事業として、7事業を選定しました。

<u>基本施策1 学校教育の推進</u>	①熊野町「学びの変革」推進事業 ②小学校低学年書道科指導事業
<u>基本施策2 生涯学習の振興</u>	③生涯学習振興事業 ④図書館運営事業 ⑤くまどく推進事業
<u>基本施策3 文化・芸術の振興</u>	⑥文化芸術振興事業
<u>基本施策4 スポーツの振興</u>	⑦スポーツ振興事業

(3) 実施方法

点検・評価は、対象事業ごとに次の内容を明らかにすることにより行いました。

- ・令和4年度の目標
- ・令和4年度事業（取組）実績
- ・達成事項（成果）
- ・分析・評価
- ・自己評価
- ・今後の方向性
- ・評価委員による評価
- ・指摘事項を受けての改善

(4) 評価の判断基準

評価に当たっては、第6次熊野町総合計画を踏まえ、対象事業ごとに評価指標等を設定し、事業実績や達成事項（成果）等をもとに評価を行いました。

また、学識経験者は、教育委員会の自己評価をもとに指摘事項及び意見を付して評価を行いました。

教育委員会の自己評価及び学識経験者の評価は、次の4段階で総合評価を行いました。

区 分	内 容
A	期待以上である
B	期待どおりである（引き続き事業を継続する必要がある。）
C	期待以下である
D	抜本的な見直しが必要

2 学識経験者の知見の活用

点検・評価は、その客観性を確保するため、教育委員会において執行した事務事業の状況等について、次の3名の方から意見を伺いました。

・意見聴取日 令和5年7月19日（水）

氏 名	役 職 等
おぎ の つぎ お夫 荻 野 次 夫	・元 青少年育成くまの町民会議会長 ・元 広島国際学院高等学校長
ひら お たか こ子 平 尾 貴 子	・公民館運営審議会委員 ・元 民生委員・主任児童委員
そよだ ひろ ふみ 曾余田 浩 史	・広島大学大学院 教授 (大学院人間社会科学研究科)

3 各施策の点検・評価

(1) 熊野町教育行政施策の方針

第2次 熊野町教育大綱

【基本理念】学ぶ力と 豊かな心を育むまち

【基本方針】

将来像「ひと まち 育む 筆の都 熊野」に向けた基本理念「学ぶ力と豊かな心を育むまち」を実現するため、子どもたち一人ひとりが、主体性・創造性を持ち、それぞれの能力や個性を生かしながら、将来を担う人材となるよう、本町の自然や歴史、人材等を活用した特色のある教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組を進める。

また、生涯を通じて、学び続け、充実した生活を送ることができるよう学習機会を提供するとともに、文化や芸術、スポーツにふれる機会を設けることで、豊かな心を育む教育に努める。

基本施策	具体的施策	点検・評価対象事業
1 学校教育の推進	1 幼保小中連携教育の推進 2 適正な学校配置の検討 3 学校教育体制の充実 4 地域における学校支援の充実 5 ふるさと教育の推進 6 健やかに学ぶ環境の整備 7 学校施設の整備 8 安全対策の強化	熊野町「学びの变革」推進事業 [P11] 小学校低学年書道科指導事業 [P14]
2 生涯学習の振興	1 生涯学習体制の充実 2 生涯学習活動の活性化 3 生涯学習施設の整備・有効活用	生涯学習振興事業 [P17] 図書館運営事業 [P20] くまどく推進事業 [P22]
3 文化・芸術の振興	1 地域文化活動の支援 2 芸術文化の振興 3 文化活動の推進	文化芸術振興事業 [P25]
4 スポーツの振興	1 スポーツ振興体制の充実 2 スポーツ・レクリエーション活動の活性化 3 総合型地域スポーツクラブ（筆の里スポーツクラブ）の育成と定着 4 スポーツ・レクリエーション施設の整備・有効活用	スポーツ振興事業 [P28]

令和4年度熊野町教育行政施策の方針

教育行政施策方針 学ぶ力と豊かな心の実現

令和4年度重点目標【学び続ける力の育成】【思いやりの深化】【学校・地域等の連携強化】

令和4年度重点目標の実現に向けた主な施策

学校教育

がんくまプロジェクト

- 「学びの改革」推進協議会
・「本質的な問い」による授業改善：主発問・補助発問、振り返り、評価
・カリキュラム・マネジメントの充実：分析・評価・改善
・中学校区をつなぐ研修：他校の研究授業に原則一人1回以上参加

【指定事業】

- 探究的な学習部会
【熊野中学校区（熊中・一小・三小）】
・探究的な学習の在り方に関する研究（2年間指定の2年目）
・小中連携による生活・総合的な学習の時間の単元開発と実践
- 小学校低学年からの学び喜びサポート授業【三小】
- 小学校外国語教育推進研修【四小】
- 中学校英語におけるICTを活用した言語活動充実プロジェクト【熊中】
- 小中学校生徒指導サポート実践校【四小・熊中】
- 小中学校SSR推進校【熊中】
- 特別支援学級支援プロジェクト校【熊中】

【各種委員会】

- 教育支援委員会
：就学前相談、教育相談、就学時健診
- 学校給食審議会
：食育（学校給食の計画及び実施）、栄養管理
- 小学校社会科副読本編纂委員会
：副読本「ふるさと熊野～誇りと愛情～」の活用

ふるさと教育

～「ふるさと熊野」に誇りと愛情をもち、熊野で学んでよかったと思える教育を目指して～

学校教育と社会教育を関連付けた事業 ～持続可能な教育（ESD）の推進～

- 熊野筆に関する事業※
：小学校低学年書道科、教員書道実技研修、小学生筆づくり体験、全国書画展覧、筆踊り・和太鼓・組曲等
- くまどく事業※
：くまどくプログラム、「くまどくノート・くまどくカレンダー」の活用、熊野町子ども司書養成講座、学校図書担当当番会
- 防災・減災教育事業※
：防災・減災教育研修会、「ひろしまマイ・タイムライン」の推進、熊野町子ども防災・減災講座、安全教育の充実
- 熊野町適応指導教室（がんくま教室）
：児童生徒の居場所づくり、関係機関、ボランティア団体との連携
- キャリア教育の充実※
：即感や産業界と連携した出前講座・職場体験学習、進路と自己表現

【学校教育主権推進協議会】

- 学力向上推進協議会：主体的な学びの推進、基礎学力の定着
- 生徒指導推進協議会※：生徒指導・教育相談体制の充実、不登校支援、児童・生徒会活動
- ICT活用推進協議会：ICTを活用した探究的な学習活動
- 特別支援教育推進協議会※：切れ目ない支援の充実（特別支援学級、通級指導）
- 幼保小中高連携教育推進協議会※：育ちと学びをつなぐ連携・接続の充実
- 道徳教育推進協議会：道徳教育部会と兼ねる

社会教育

生涯学習の振興

- ・地域コミュニティの核としての公民館活動
熊野町民会館、熊野東防災交流センター、熊野西防災交流センター
：町民文化祭の実施、多世代ニーズに応じた主催事業の展開
- ・熊野町図書館の運営
：資料・情報収集と整理、読書推進、図書読み語り
熊野町子ども読書活動推進計画の推進

○文化・芸術の振興

- ・地域文化活動の推進※：交流館まつり、多世代交流、地域との協働
- ・芸術文化の振興※：伝説芸能にふれ合う機会の提供（等曲・琴）
- ・熊野町郷土館の維持・管理

○スポーツの振興

- ・熊野町民体育館・熊野町民グラウンドの維持・管理
- ・地域スポーツ活動の活性化※
：町民体育大会、新春熊野スター駅伝大会、熊野駅伝大会
・「風の吼えボーツクラブ」の充実；スポーツにふれあう機会の提供
・あそびとまなびの交流学校；NPO熊野陸上スポーツ振興会の委託事業
・学校体育施設の開放・小学校プール開放事業

【社会教育主権推進事業】

- 放課後子ども教室推進事業
：土曜くまのっ子教室の運営
：工作・料理、異文化交流・レクレーション等
- 成人を祝う会事業
：熊野町成人を祝う会実行委員会

【各種委員会】

- 社会教育委員会
- 公民館運営審議会
- 熊野町スポーツ推進協議会
- 社会教育関係補助団体

※熊野高校と連携

コミュニティ・スクール

(2) 基本施策ごとの実績

【基本施策1】学校教育の推進

(★：特に成果があったと考える事項)

具体的施策	
1 幼保小中高連携教育の推進	5 ふるさと教育の推進
2 適正な学校配置の検討	6 健やかに学ぶ環境の整備
3 学校教育体制の充実	7 学校施設の整備
4 地域における学校支援の充実	8 安全対策の強化
取組と成果	
<p>★ 幼保小中高連携教育の推進として、幼保小中高教育推進協議会を開催し、小中学校教諭の保育体験や園所教職員の授業参観を通じて、子どもの特性やカリキュラム構成について理解を深めた。</p> <p>○ 学習支援体制の充実を図るため、各種支援員を各校に配置した。また、国の GIGA スクール構想に基づき、学習用端末の活用等を推進し、児童生徒一人ひとりの理解度に応じた教育体制の充実に取り組んだ。</p> <p>○ 学校給食では、小中学校でデリバリー方式の給食を引き続き提供し、特別デザートを提供等を通じて、児童・生徒の心身の健全な発達や食育の推進を図った。 (令和4年度喫食率 小学校：79.2%、中学校：59.5%)</p> <p>★ 地域における学校支援の充実として、コミュニティ・スクール(CS)活動を推進し、CSルームの開設や研修会の実施など、各校の特色や地域性を生かした取組を実施した。</p> <p>○ 健やかに学ぶ環境の整備として、特別支援教育推進協議会において講演を実施するなど、児童・生徒の個に応じた支援の充実に取り組んだ。また、適応指導教室(がんくま教室)を週3回開催し、不登校傾向の児童・生徒に対する学習指導や必要な支援の充実を図った。</p> <p>○ 就学に必要な学用品費や給食費、医療費などの援助を行うことにより保護者の経済的な負担を軽減し、児童・生徒が安心して学べる環境の整備に取り組んだ。</p> <p>○ ふるさと教育の推進として、小学校低学年を対象に教育課程外で毛筆を使った学習を実施し、ふるさと熊野を知るとともに、書道を通じた集中力や持続力の涵養に努めた。</p> <p>○ ふるさと教育を推進するため、最新の熊野町の状況等について調査し小学校社会科副読本「ふるさと熊野」について、平成20年以来の改訂を行った。</p> <p>○ 学校施設の整備として、熊野中学校武道館屋根、熊野東中学校体育館屋根などの改修工事を実施するとともに、老朽化した学校施設の予防保全的な修繕・改修を行い、安全・安心な教育環境の維持に努めた。</p> <p>○ 安全対策の強化として、自転車教室や歩行者教室を実施し、交通安全の意識啓発に取り組んだ。また、通学路交通安全プログラムに基づき、各学校から要望のあった危険箇所を関係者間で共有し、対策箇所を公表するとともに、合同点検を実施した。</p>	

課 題
<p>★ 幼保小中高連携教育については、子どもの育ちや学びを共通の視点で見ることが必要である。</p> <p>○ 学習支援体制の充実に係る GIGA スクール構想の実現については、児童・生徒の更なる ICT 活用のため、教員の理解・利用促進が不可欠であり、学校ごとに活用に濃淡が生じないよう取り組む必要がある。</p> <p>○ 現行の学校給食デリバリー方式では、温かい給食提供の要望に応えられておらず、配膳の実施等による食育も推進できていない。</p> <p>★ コミュニティ・スクール活動の推進については、学校間の取組に差が生じている。</p> <p>○ 老朽化している学校施設については、優先度を勘案しながら必要な対処を行うことにより、安全・安心な教育環境の確保に努める必要がある。</p>
今後の方向性
<p>★ 幼保小中高連携教育の推進では、研修により教員の指導力向上を図るとともに、縦の接続や横の連携をスムーズにする取組を強化する。</p> <p>○ ICT の更なる活用や環境整備により、学習機会の拡大や新たな時代に対応した教育体制の充実に取り組む。また、支援が必要な児童・生徒への対応として、引き続き各種支援員を配置し、個々に応じたきめ細やかな教育支援を行う。</p> <p>○ 学校給食では、温かい給食の提供や食育の更なる推進に向け、現行のデリバリー方式に変わる方式について調査研究を行う。</p> <p>★ コミュニティ・スクール活動の推進では、先進地視察や活動の核となる学校運営協議会委員への研修を行うとともに、教職員や地域関係者を巻き込んだ研修等を実施し、人材育成や意識醸成に取り組む。</p> <p>○ 学校施設の整備については、「熊野町学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的な修繕、改修または改築工事を実施する。</p>

点検・評価対象事業

熊野町「学びの変革」推進事業
 小学校低学年書道科指導事業

熊野町「学びの変革」推進事業（学校教育の推進）

1 令和4年度の目標

熊野町がんくまプロジェクトにより、児童・生徒の確かな学力を育成する。

2 令和4年度の事業(取組)実績

熊野町がんくまプロジェクトを計画し、町立小中学校の6校で「学びの変革」に努めた。

(1) 熊野町「学びの変革」推進協議会

- ・各小中学校長、「学びの変革」推進担当教員を中心に熊野町「学びの変革」推進協議会を開催し、本質的な問いに関する授業改善に関して協議を重ねた。(3回/年)

(2) がんくまプロジェクト授業研修会

- ・全教職員が他校の授業研修会に一人1回以上参加し、グループ協議で深めた。(11回)

(3) 探究的な学習部会（熊野中学校区）

- ・探究的な学習の在り方に関して、理論研修と授業研修を行った。(5回)
- ・公開授業研究会を実施した。

(4) 道徳教育部会（熊野東中学校区）

- ・道徳教育に関して、理論研修と授業研修を行った。(3回)
- ・公開授業研究会を実施した。

(5) 各種推進協議会

- ・教育課題別の推進協議会を開催し、授業研修や実践報告等に関する協議を重ねた。
生徒指導推進協議会（8回） 学力向上推進協議会（3回） ICT活用推進協議会（5回）
特別支援教育推進協議会（3回） 幼保小中高教育推進協議会（4回）

3 達成事項（成果）

(1) 学習意識等調査 児童・生徒質問紙調査の結果

	小学校		中学校	
	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度
自分で勉強の計画を立てています。	61.5%	62.2%	54.4%	55.7%
授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	79.5%	83.4%	82.1%	86.2%
授業では、めあてと対応したまとめや振り返りをしています。	85.5%	84.3%	86.6%	85.4%
自分には、よいところがあります。	76.9%	78.9%	75.9%	75.6%

(2) 熊野町標準学力調査の結果状況 … 標準スコア（全国平均 50）の達成状況

	小学校				中学校				
	国語	社会	算数	理科	国語	社会	数学	理科	英語
1年	52.1	/	53.6	/	51.9	48.7	50.7	49.6	49.6
2年	50.1		52.8		49.3	49.6	48.3	49.3	46.1
3年	51.3	53.0	53.2	51.7	50.2	47.6	50.5	49.6	52.1
4年	53.1	54.1	52.5	50.4	/				
5年	53.3	52.6	53.7	49.9					
6年	53.0	54.4	55.1	50.7					

4 分析・評価

- 児童・生徒質問紙調査の結果によると、「自分で勉強の計画を立てています。」の項目に対する肯定的回答が昨年度より小学校0.7%、中学校1.3%向上している。また、「授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」の項目では、肯定的回答が小学校3.9%、中学校4.1%向上しており、がんくまプロジェクトで情報共有や研究授業等を実施したことにより、教職員の授業力等を高め、児童・生徒の主体的・対話的な学びを充実させることができた。
- 一方で、「授業では、めあてと対応したまとめや振り返りをしています。」の項目に対する肯定的回答が小・中学校ともに1.2%低下しており、授業のめあてを明確にし、何のために学ぶのか、どのように学ぶのかなど、児童・生徒が自ら考え、判断する機会を増やすことが必要である。
- 熊野町標準学力調査の結果によると、小学校では、ほぼ全ての教科、学年で全国平均を上回っており、良好であった。しかし、5年生の理科は全国平均を0.1ポイント下回っており、観察・実験に関する問いに対して課題がみられた。観察・実験の知識が定着していないことが考えられるため、授業の振り返り等で観察・実験したことを言語化するなど、必要な用語等を含め確実に定着させることが必要である。
- 中学校では、全学年の社会科及び理科に加え、2年生の結果が全国平均を下回った。社会科では、知識・技能の通過率が平均値を下回る傾向にあった。また、2年生では主体的に学習に取り組む態度が低い傾向があるため、学習に対する動機付けをしっかりと行う必要がある。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

- 熊野町がんくまプロジェクトにより、教育用端末を活用した個に応じたドリル学習を充実させ、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、児童・生徒が自分の考えを表現しながらお互いに学び合えるような授業改善を行い、児童・生徒の主体的で対話的な深い学びにつながる取組を推進する。
- さらに、がんくまプロジェクト授業研修会において、各学校がお互いに授業を公開し、協議を重ねることで、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を行い、「学び続ける力の育成」と「思いやりの深化」を実現させていく。
- また、各校の学力向上に対する取組を交流することで、児童・生徒が自己発揮できる学力調査等の機会に対する教職員の意識を高め、児童・生徒が自分自身の力を挑戦的に発揮できるよう取り組む。

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● 「がんくまプロジェクト」による全教職員の研修、各種推進協議会の充実等により、町内の特に小学校における学力向上が見られた。中学校においてははやや全国レベルに達しない科目がある。今後の対策が望まれる。● 自ら計画を立てて実行する、主体的な勉強は身に付くと思うが、中学生の学力調査の結果は残念。しっかりと学力を上げたうえで、不登校や適応指導の必要な生徒にも対応していただきたい。● 「熊野町がんくまプロジェクトにより、児童・生徒の確かな学力を育成する」が当該年度の目標であるので、令和4年度の中学校の「標準スコアの達成状況」が下がっていることは重要視すべきだと考える。引き続き事業（プロジェクト）を継続する必要があるが、なぜ学力が下がっているのか・上がるためには何が必要かに関する分析やプロジェクトの取組状況の吟味が必要であり、それに対応した「今後の方向性」を示していただきたい。		

8 指摘事項を受けての改善

- 中学校の授業改善について指導助言を行う。特に、積み上げ学習である算数・数学について知識と生活を結び付けて課題解決するための研修を実施する。

小学校低学年書道科指導事業（学校教育の推進）

1 令和4年度の目標

小学校3年生から始まる毛筆を使った書写の学習への円滑な移行を図るため、小学校1・2年生を対象に教育課程外で年間15時間、毛筆を使った学習を実施する。また、ふるさと「筆の都熊野」を知るとともに、書道を通して、正しい姿勢、筆の持ち方、基本的な筆の使い方などを意識し、学習の基本となる集中力や持久力を養う。

2 令和4年度の事業(取組)実績

事業費：5,138千円

(1) 実施回数 町内小学校1・2年生において、各年間15時間

(2) 実施校数 町内小学校4校

(3) 対象児童 1・2年生 16クラス（1年生：177名、2年生：177名、計354名）

(4) 指導者 低学年書道科専任講師と担任教員による指導

(5) 取組内容

- ・1年生は1学期に3回水書板を使い、4回目から墨と半紙を使って学習し、2年生は年度当初から墨を使い、学習を発展させた。
- ・指導の統一と連携を図るため、「熊野町低学年書道科年間指導計画・学習指導案」を作成し、活用した。

3 達成事項（成果）

1・2年生児童アンケート結果	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
心を落ち着かせ、集中して学べる児童の割合	94%	94%	92%	92%	93%
正しい姿勢、筆の持ち方ができる児童の割合	91%	88%	89%	85%	89%

4 分析・評価

- 児童は講師の専門的な指導を受け、毛筆を使って文字を書くことについて興味・関心を持ち、集中して授業に取り組むことが定着している。アンケート結果では、「心を落ち着かせ、集中して学べる児童の割合」は90%を超えており、学習の基本となる集中力の向上に寄与している。
- アンケート結果の「正しい姿勢、筆の持ち方ができる児童の割合」では、年々低下傾向にあるものの、令和4年度では85%となっており、入学時において正しい姿勢が定着している児童は少ないが、声掛けにより意識する状況が見られる。
- 1・2年生での低学年書道科において指導した内容を3年生以降の書写の学習につなげ、また、集中力や正しい姿勢を他の授業にも活かすよう、全教員を対象とした書道実技研修を開催し、共通認識を高める取組を継続して実施する必要がある。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

低学年書道科の指導方法（文字の原型、基本点画、児童の変容を見る）を全教員が身に付けられるよう、次のような教員の研修の継続と徹底を図る。

- (1) 低学年書道科専任講師と3年生以上の担任教員との連携による指導の充実
- (2) 低学年書道科のカリキュラムの見直し等による指導内容の充実
- (3) 3年生からの毛筆を使った書写の学習への円滑な接続
- (4) 低学年書道科で身に付けた書に向き合う姿勢や態度、集中力の継続的な指導

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● 低学年書道科導入は、「筆の都熊野」に対する郷土愛と誇りを醸成する格好の教科である。また、正しい姿勢、集中力の養成は、その後の学習に大きく貢献する。● 定着していると思う。正しい姿勢、筆の持ち方等を指導したうえで、熊野中学校・熊野東中学校の書道部、熊野高校の書道科部の先輩の書く姿を見せて学ばせるのがよいのではないか。書く楽しさ等を感じられると、集中力も違うのではないか。● 本事業は熊野に誇りと愛情を持つ「ふるさと教育」の柱の一つ、熊野の教育の基盤であり、そうした位置づけのもと、引き続きの事業展開に期待したい。		

8 指摘事項を受けての改善

- 本町の「ふるさと教育」の基盤としての位置付けを意識し、書く楽しさを通じて「ふるさと熊野」への誇りや愛着、思いやりの心を育むとともに、正しい姿勢や筆の持ち方を他の学習へも活かすよう、カリキュラムの見直し等による指導内容の充実に取り組む。

【基本施策2】生涯学習の振興

(★：特に成果があったと考える事項)

具体的施策	
1 生涯学習体制の充実 2 生涯学習活動の活性化	3 生涯学習施設の整備・有効活用
取組と成果	
<p>○ 各公民館において、住民の主体的な活動グループ・団体の育成支援、相互連携の促進を図るとともに、多様で専門性の高い学習機会の提供など魅力ある教室・講座の充実や活動場所の確保に努めた。</p> <p>○ 図書館においては、資料・情報の収集と整理、館内設備、サービスなど、図書館機能の充実を図り、豊かな人間性を育む読書活動の推進に取り組んだ。</p> <p>★ 各公民館、図書館ともに、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館や利用制限はなく、コロナ禍以前のような事業を展開することができつつある。</p> <p>○ くまどく事業では、令和4年11月5日に「くまどくフォーラム」を実施するなど、町内すべての0歳から中学3年生までを対象に読書習慣の確立と、「読書」を通じた親子・家族の絆づくりを推進した。</p> <p>○ 青少年育成や人権啓発等のイベントや講演会を実施し、幅広い年代に対し専門性の高い学習機会の提供に取り組んだ。</p> <p>○ 経年劣化した町民会館講堂舞台の吊物機構改修工事を施工し、安全・安心な地域コミュニティの場を整備した。</p>	
課 題	
<p>★ 公民館の活動グループや主催事業については、参加者の固定化が顕著であり、かつ、男性の参加が少ない傾向にある。</p> <p>★ 図書館の利用者数が低迷しており、特に子どもの利用が減少傾向にある。</p> <p>○ くまどく事業については、保育所等や学校でのくまどくノートの更なる活用促進が必要である。</p> <p>○ 生涯学習の拠点施設である町公民館の老朽化が著しいため、計画的な施設改修が必要である。</p>	
今後の方向性	
<p>★ グループ活動や主催事業の周知方法等の検討を行い、新規参加者の増加に努めることにより、生涯にわたって学び続ける力を育む。</p> <p>★ 図書館の利用促進については、定評のある書籍のみならず、利用者の関心を引く書籍の収集に努めるとともに、幼児のおはなし会や学校との連携を強化することにより、読書への関心を深めるよう取り組む。</p> <p>○ 「くまどく」により、読書に親しむ機会の充実や本や図書館に関する情報発信に取り組むとともに、小学生の図書館見学の受入れや図書館資料の貸出、「子ども司書」の活動促進などに取り組むことにより、読書活動の推進を通じた思いやりの深化を図る。</p>	

点検・評価対象事業

生涯学習振興事業

図書館運営事業

くまどく推進事業

生涯学習振興事業（生涯学習の振興）

1 令和4年度の目標

町民一人一人に生涯を通じて幅広い学習機会の提供・支援と、社会連帯意識の高い人間形成の基盤整備を目指すため、生涯学習拠点である3地域の公民館において、教育、学術及び文化に関する各種事業を行うとともに、多世代交流による活力ある地域づくりを推進する。

2 令和4年度の事業(取組)実績

- 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を引き続き講じたものの、臨時休館や利用制限はなく、各公民館グループの活動を支援するとともに、趣味・技能、健康・レクリエーション等の主催事業を実施した。
- 令和4年7月から令和5年2月までの間に、放課後子ども教室（土曜くまのっ子教室）を10回開催し、学生ボランティア等と連携した遊びやスポーツ、体験活動を通じた学年の児童や大人との交流を図り、児童の自主性や社会性及び創造性を養う事業を行った。
- 令和4年5月に町民会館において「ピエロクッキー座」を開催し、劇団の公演による人権学習講座を実施した。
- 経年劣化した町民会館講堂舞台の吊物機構改修工事を施工し、安全・安心な地域コミュニティの場を整備した。

3 達成事項（成果）

（1）公民館活動グループ数

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
町公民館	43	42	41	39
東分館（～R3.4東公民館）	19	19	17	18
西分館	68	69	60	59
合計	130	130	118	116

（2）施設利用状況

① 町公民館

	R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	
	件	人	件	人	件	人	件	人
主催(共催)事業	94	5,302	43	613	52	805	79	1,534
社会教育関係団体	1,194	14,507	1,073	14,414	805	9,428	1,229	14,325
教育行政	239	7,318	95	2,899	165	2,196	264	5,091
一般行政	801	15,061	245	5,615	861	20,916	226	10,223
その他	372	11,028	153	3,753	390	2,064	164	4,201
合計	2,700	53,216	1,609	27,294	2,273	35,409	1,962	35,374

② 東分館（～R3.4 東公民館）

	R 元年度		R2 年度		R3 年度		R4 年度	
	件	人	件	人	件	人	件	人
主催(共催)事業	151	1,584	70	1,062	45	533	66	1,039
社会教育関係団体	776	4,039	349	3,190	263	2,615	436	4,225
教育行政	4	41	1	13	17	430	8	419
一般行政	281	3,531	4	23	60	2,614	38	1,160
その他	190	909	64	258	28	291	38	352
合計	1,402	10,104	488	4,546	413	6,483	586	7,195

③ 西分館

	R 元年度		R2 年度		R3 年度		R4 年度	
	件	人	件	人	件	人	件	人
主催(共催)事業	184	4,574	209	2,142	78	1,754	124	5,734
社会教育関係団体	2,375	28,590	2,336	22,962	1,931	17,247	2,072	27,859
教育行政	219	5,158	70	431	0	0	13	221
一般行政	428	9,284	38	363	174	4,910	62	2,828
その他	622	6,933	321	2,106	485	3,038	415	3,653
合計	3,828	54,539	2,974	28,004	2,668	26,949	2,686	40,295

※臨時休館（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策による）

R 元年度…R2.3.1～R2.3.31

R 2 年度…R2.4.1～R2.5.31、R2.12.21～R3.2.7

R 3 年度…R3.5.15～R3.6.20、R3.8.27～R3.9.30、R4.1.15～R4.3.6

4 分析・評価

- 公民館活動グループについては、コロナ禍を経て、特に西分館の活動グループの減少が見られたものの、臨時休館等はなく定期的な活動が可能となったため、これら活動グループを含む「社会教育関係団体」の利用状況は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和元年度）の水準に戻りつつある。
- 主催（共催）事業については、町公民館が新型コロナワクチンの集団接種会場となった影響等により利用件数・人数ともに少なくなっているものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和元年度）の水準に戻りつつある。
- 主催（共催）事業の参加者では、趣味や健康、高齢者のための事業は、多くの住民が参加したものの、家庭・幼児支援のための事業は参加者が少なかった。参加人数の少ない事業については、周知方法等の検討を行い、更なる事業拡充を図る必要がある。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

- 地域により活動グループや施設利用状況に差異があるものの、各館を地域の活動拠点とし、地域特性に即した事業の充実を図る。
- 誰でも気軽に参加できる講座や開催方法等を検討し、現状の賑わいを維持しつつ、新規参加者が参加したくなるような場の創出や事業の実施に取り組み、誰もが生涯にわたって学び続ける力を育む。

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● 教育委員会の様々な取組は評価できるが、令和2年から令和4年にかけてのコロナ禍が非常に大きく影響していることは否めない。令和5年度以降のリーダーシップに期待する。● コロナ禍を経て、利用者も年齢的に世代交代していると思う。乳幼児支援は、くまの・こども夢プラザに一任したらよいと思う。広報誌だけでなく、主催事業のお知らせを熊野町のLINE等で定期的に募集してもよいのではないか。● 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、事業を感染拡大前の状態に戻すことに力を入れた年であった。今後に向けての検討課題となるが、生涯学習振興事業についてなんらかの目標値（参加人数など）を設定する必要があるのではないか。		

8 指摘事項を受けての改善

- 主催事業について、あらかじめ企画意図を明確にして立案するとともに、LINEの活用などの周知方法について検討を行う。
- また、主催事業や社会教育団体等の利用目標人数を設定し、多世代交流による活力ある地域づくりの実現に向け、毎年度評価するよう見直しを行う。

図書館運営事業（生涯学習の振興）

1 令和4年度の目標

図書、記録及び資料を収集し、住民に供与することで、必要な情報を自ら取得し、判断できる環境を整え、本のある暮らしや情報がもたらす安らぎのある暮らしを提供する。

2 令和4年度の事業(取組)実績

- 新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、ボランティアによるおはなし会の開催や書籍の貸出を行った。
- 図書館まつりや夏休みイベントなどの各種事業を開催し、図書館に関心を持つ機会を創出した。
- 団体見学として、町内小学校の2年生を生活科の時間に受け入れた。(計5日、147人)
- 新たな本を受け入れることで、利用者の満足度を充足させた。(6,052冊)

3 達成事項(成果)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
蔵書冊数(図書)	116,286冊	119,460冊	120,329冊	122,306冊
開館日数	274日	269日	266日	286日
入館者数(1日当たり)	81,189(325)人	59,597(222)人	53,558(201)人	75,306(263)人
貸出冊数(1日当たり)	159,675(639)冊	137,263(510)冊	125,858(473)冊	158,766(551)冊
登録者数	467人	395人	357人	529人
有効登録者数	3,972人	3,273人	3,047人	3,335人
町民一人当たり貸出冊数	6.7冊	5.8冊	5.4冊	6.7冊

※臨時休館又はサービス一部制限（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策による）

R元年度…R2.3.1～R2.3.31

R2年度…R2.4.1～R2.6.1、R2.12.22～R3.2.8

R3年度…R3.6.1～R3.6.20、R3.8.27～R3.9.30、R4.1.15～R4.3.6

4 分析・評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館はなく、感染防止対策を講じたうえで図書館サービスを提供することができたため、貸出冊数は新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和元年度）の水準に戻りつつある。
- 一方、入館者数は新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和元年度）の水準に戻っておらず、令和元年以前から減少傾向にあり、特に子どもの利用者が減少している。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

- 図書やその他資料の蔵書については、定評のある書籍のみならず、利用者の関心のある書籍の収集に努め、読書への関心を深める。
- また、入館者数及び貸出冊数についてはコロナ禍である前年度と比較すると増加したものの、令和元年度以前と比較すると両数値とも大幅に減少している状況のため、「くまどく」や図書館まつり、おはなし会の充実等、さらなる取組の推進を図る。

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● 令和2年度、令和3年度に比べて入館者数、登録者数など本来の姿に戻りつつある。入場者数の減少(特に子ども達)は、少子化とは言え、しかるべき対策が必要ではないだろうか。● 一度遠退いた場所に再び足を運ぶように促す、2年生の生活科の時間での受け入れはよいと思う。授業が午前みの日は、午後から図書館で読書や宿題等楽しく利用するように促したらよいのではないか。● 第6次熊野町総合計画のまちづくり指標「図書館の人口一人当たり貸出冊数」:目標値(R7)8冊が設定されているので、どうすれば目標値を達成できるのかについて「今後の方向性」(特に「くまどく推進事業」との関係)を示していただきたい。		

8 指摘事項を受けての改善

- 目標値8冊を達成するために、子どもの読書推進に力を入れていく。具体的には、朝読セットを小学校へ各学期に配布しているが、セット本の内容を「楽しむ読書」に重点を置き、選書・購入することや、図書館を訪れる機会が増えるよう夏の子ども向け行事を充実することなどを引き続き実施する。
- 「くまどく推進事業」については、司書連絡会を開催し、学校と連携して取り組む。

くまどく推進事業（生涯学習の振興）

1 令和4年度の目標

本の楽しさに触れながら、ことばの力や感性等を身に付け、生涯にわたって主体的に学び続ける豊かな心を育む読書活動を推進する。

2 令和4年度の事業(取組)実績

町内すべての0歳から中学3年生までを対象に「本を読むこと」が好きになるのはもちろん、「読書」を通して親子・家族の絆づくりを主な目的とした熊野町独自の家庭読書推進活動「くまどく」を実施した。

(1) 第5回くまどくフォーラム（ビブリオバトル）の開催

- ・令和4年11月5日 町民会館（集会室）で開催（参加者：約70人）
小、中、高、一般の部に分かれ、ミニビブリオバトルを開催 … 参加者：18人
- ・本のポップ作品展示（各小中学校の児童生徒から本のポップ作品を募集し、公民館等に展示）

(2) くまどく事業の取組（対象者：約3,000人 ⇒ 幼児、児童、生徒及びその保護者）

- ・「くまどくノート」の作成、配付（啓発）：3,100冊（予備分含む）
- ・啓発活動
「くまどく」実践者による啓発記事「この本、よかった！」の広報くまへの毎月掲載
「ゼロの日運動」「STOP9」の周知
あかちゃん広場ブックスタート事業での「くまどく」参加勸奨
保育所、幼稚園等への「くまどく」の周知及び参加勸奨 等

- ・くまどくカレンダー作成 … 270部

配付先 ⇒ 町内小中学校(全教室)、幼稚園・保育園・認定こども園、熊野高校、各公共施設

- ・事業の推進のため、達成基準となる「くまどくノート」の様式、記載方法等の見直し

(3) こども図書館だよりの定期発行（未就学児用、小学生用、中学生用）

(4) 子ども司書養成講座の開催

- ・参加を希望した町内小学校の5年生を対象に、子ども司書に関する全体研修、ポップ作りや読み聞かせ体験などの図書館や町内保育所での実地研修、他の子どもたちに読書を進める学校での読書推進活動を実施

3 達成事項（成果）

指 標	R元年度	R2年度
くまどく実施状況（年間40週満了の小・中学生）	74.7%	83.4%

（達成基準見直し後）

指 標	R3年度	R4年度	目標値
くまどく実施状況（1月に24日以上の小・中学生）	67.0%	58.7%	77.0%

4 分析・評価

- 「くまどく実施状況」については、令和3年度から達成水準を変更したところであるが、学校間での達成率に濃淡がみられ、目標値からは乖離がある状況であった。
- 幼稚園、保育園、認定こども園へのくまどくノートの配付や事業周知等により、「くまどく」に対する理解促進を図り、参加促進につなげることができた。
- あかちゃん広場ブックスタートで未就園児親子に対し、「くまどく」を奨めることができた。
- 「くまどく」で読解力（文字を読む力、読み解く力）を養えることから、学力向上の一助となっている。
- 「くまどく」の実施については、校長会、学校司書連絡会議等を通じて、児童・生徒に対する事業周知の徹底と学校との連携を密に行っていく必要がある。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

- 「くまどく」により、読書に親しむ機会の充実や本や図書館に関する情報発信に取り組むとともに、小学生の図書館見学の受入れや図書館資料の貸出、「子ども司書」の活動促進などに取り組むことにより、読書活動の推進を通じた思いやりの深化を図る。
- また、「くまどくフォーラム」の内容の見直しを行い、より読書活動が身近に感じられるような工夫や、町外にも実施を周知するなど「くまどく」の取組を発展させるよう検討する。

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● 「くまどく」は、本町の教育施策の中では、最も大切な分野の一つである。令和4年度の実施状況が大幅に下がっていることは見過ごすことはできない。「くまどく」は、人間形成にとっても、学力の向上にとっても、大いに影響を与える。各学校への激励の意味でC評価。● 子どもの周りは携帯とパソコンで、テレビでも YouTube、SNS、ゲームと楽しくて刺激的なものがたくさんある。その中で、読書の大切さを感じられるように家庭、学校、図書館と密に連携を取ってほしい。● 令和3年度から達成基準（指標）を見直した際にその捉え方に混乱があり、達成率に実態が正確に反映されていないので、次年度から徹底していただきたい。「今後の方向性」について、社会教育（図書館など）と学校教育とのさらなる連携が重要だと考える。		

8 指摘事項を受けての改善

- 図書館や学校との連携により「くまどく」の取組を発展・深化させるよう検討を行う。
- 校長会、学校司書連絡会議等を通じた事業周知により、「くまどく実施状況」の実態の正確な反映を徹底するとともに、「くまどくフォーラム」入場目標人員の設定を行うことなどにより、「くまどく」の取組を見える化するよう見直しを行う。
- コミュニティ・スクールの取組と連動させ、学校教育や地域と融合した子どもの読書活動の機会創出を検討する。

【基本施策3】文化・芸術の振興

(★：特に成果があったと考える事項)

具体的施策	
1 地域文化活動の支援 2 芸術文化の振興	3 文化活動の推進
取組と成果	
<p>○ 優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、各団体の主体的な活動が図られるよう支援し、芸術文化の振興、地域文化活動の推進に努めた。</p> <p>★ 熊野町文化団体連絡協議会の活動に対して助成を行うなど、子どもから大人まで、町民が優れた芸術・文化に親しむことができるよう、音楽・芸術などの鑑賞機会の提供に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年5月21日 ピアノ開きコンサート（西分館） ・令和4年6月26日 スピリタス・コンサート（町公民館、主催：熊野町文化団体連絡協議会） ・令和4年7月26日 銀河鉄道の夜と夏の星座観察会（町民会館） ・令和5年3月25日 スタインウェイピアノ開きコンサート（町民会館） <p>○ 筆の魅力に町民が触れ親しむ機会の創出や、「ふるさと熊野」を愛する心を養うため、各公民館で主催事業を実施した。</p> <p>○ 先祖の生活、歴史、産業、文化等を伝える用具や筆の文化に関する展示を行っている郷土館を、土・日・祝日に開館し、地域文化の発信に努めた。</p>	
課 題	
<p>○ 各公民館事業については、固定された参加者の受講が目立つため、より多くの地域住民に参加を促す工夫が必要である。</p> <p>○ 郷土館施設の老朽化対策や展示品整理を行い、文化財の活用・保存に取り組む必要がある。</p>	
今後の方向性	
<p>★ 本町における音楽文化の振興のため、寄贈されたピアノの有効活用方法について調査・研究を重ね、更なる音楽鑑賞の機会創出を図っていく。</p> <p>★ 各公民館事業の開催方法等の検討を行い、現状の賑わいを維持しつつ、子どもから高齢者まで多世代にわたって楽しめる様々な企画を展開し、新規参加者を募集していく。</p> <p>○ 郷土館や他の文化財を町の貴重な資源の一つとして位置付け、筆の里工房と連携した展示品の整理・保存に努める。</p>	

点検・評価対象事業

文化芸術振興事業

文化芸術振興事業（文化・芸術の振興）

1 令和4年度の目標

町民や地域の文化団体・サークルの文化活動を支援するとともに、町民文化祭・各種文化講座の開催など文化活動の場と機会の提供に努め、地域文化活動の支援・芸術文化の振興を図る。

2 令和4年度の事業(取組)実績

- 熊野町文化団体連絡協議会の活動に対し助成することにより、子どもから大人まで、町民が優れた芸術・文化に親しむことができるよう、音楽・芸術などの鑑賞機会の提供に努めた。
 - 「ピアノ開きコンサート」
 - ・令和4年5月21日 熊野西防災交流センターで開催 入場者数：102人
 - ・寄贈されたピアノのお披露目として、熊野町出身の作曲家 坊田かずまの作品を紹介する演奏家が演奏するピアノ開きコンサートを開催した。
 - 「スピリタス・コンサート」（主催：熊野町文化団体連絡協議会）
 - ・令和4年6月26日 町民会館で開催 入場者数：266人
 - 「銀河鉄道の夜と夏の星座観察会」
 - ・令和4年7月26日 町民会館で開催 参加者数：67人
 - ・第1部として、切り絵の投影による作品読み語りとライア演奏、第2部として、講師による夏の星座の講義を行い、1つの題材に複数の視点からアプローチするなど、新しい切り口で事業を実施した。
 - 「スタインウェイピアノ開きコンサート」
 - ・令和5年3月25日 町民会館で開催 入場者数：520人
 - ・寄贈されたニューヨーク・スタインウェイ ヴィンテージピアノのお披露目として、熊野町出身の作曲家 坊田かずまの作品を紹介する演奏家の演奏、熊野町出身のミュージシャンとの伴奏などによる、ピアノ開きコンサートを開催した。
- 筆の魅力に町民が触れ親しむ機会の創出や、「ふるさと熊野」を愛する心を養うため、各公民館で主催事業を実施した。

	事業名	回数	人数
町公民館	・くらし筆文字教室	10回	167人
	・季節の絵てがみ講座	4回	57人
	・熊野名所めぐり	1回	26人
東分館	・遊び心習字教室	11回	169人
西分館	・筆遊び絵画教室	12回	109人
	・筆遊び書き方教室	10回	127人

3 達成事項（成果）

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
文化イベントの開催数	3回	0回	0回	4回	6回

4 分析・評価

- 熊野町文化団体連絡協議会の事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により事業の中止が続いていたが、令和4年度は熊野町文化団体連絡協議会主催による音楽コンサートが開催され、久しぶりの賑わいとなった。
- 令和4年度末にスタインウェイピアノの寄贈を受けたことを記念してコンサートを開催し、町内外から多くの聴衆がピアノの音色のすばらしさを体感できた。
- 「銀河鉄道の夜と夏の星座観察会」では、親子での参加も多数あり、親子共通の思い出づくりにつながるとともに、当企画がロコミで他市町公民館関係者に広がり、同様の企画が開催されるなどコンテンツの先進事例として評価を得た。
- 一方で、図書館の夜間行事と日程が重なったことにより参加者数が伸び悩んだため、計画段階から他施設との情報共有が必要である。
- 各公民館事業については、固定された参加者の受講が目立つため、より多くの地域住民に参加を促す工夫が必要である。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

- 本町における音楽文化の振興のため、寄贈されたピアノの有効活用方法について調査・研究を重ね、更なる音楽鑑賞の機会創出を図っていく。
- 「銀河鉄道の夜と夏の星座観察会」のような、子どもから高齢者まで多世代にわたって楽しめる様々な企画を展開していく。
- 各公民館事業の開催方法等の検討を行い、現状の賑わいを維持しつつ新規参加者を募集する。

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● コロナ禍の影響もあったと考えられるが、地道な努力がなされていると思う。各公民館等との連携を密にして、特色ある企画を展開していただければ更に充実すると思う。● 立派なピアノもあるため、定期的に熊野で音楽をしている人を集めてのコンサートをするとよいのでは。応援しようと集まるのではないか。● 文化・芸術の振興のまちづくり指標「文化イベントの開催数」：目標値(R7)は6回である。実績値はR1が3回、R3がコロナの影響で0回だったが、R4は新しい切り口での事業もあって4回に増えており、評価できる。		

8 指摘事項を受けての改善

- 寄贈されたピアノを活用して町民が音楽に触れる機会を拡充するなど、多世代にわたって楽しめる特色ある企画を展開していく。

【基本施策4】スポーツの振興

(★：特に成果があったと考える事項)

具体的施策	
1 スポーツ振興体制の充実	3 総合型地域スポーツクラブ（筆の里スポーツクラブ）の育成と定着
2 スポーツ・レクリエーション活動の活性化	4 スポーツ・レクリエーション施設の整備・有効活用
取組と成果	
<p>★ NPO 熊野健康スポーツ振興会に社会体育施設の管理を含めた事業の委託や補助金を交付し、スポーツ振興体制の充実を図り、地域住民が各地域において生涯にわたって継続的かつ気軽にスポーツに親しむことができるよう多彩なスポーツ活動の展開を図るとともに参加機会の拡充に努めた。</p> <p>○ 町民グラウンドのナイター照明を、省エネ・環境に配慮した LED 照明に改修し、施設利用環境を改善させた。</p> <p>○ 町民誰もが関心・適性に応じてスポーツを楽しめる環境づくりを具現化するための「熊野町スポーツ推進計画」（案）を策定した。</p>	
課題	
<p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響により各種スポーツイベントの開催が困難な状況が続いたが、令和4年度は熊野駅伝や新春スター駅伝を実施するなど、主催事業、自主グループ活動も順調に日常を取り戻しつつある。しかしながら、最盛期の利用者人数から減少分を回復させるには時間を要する。</p>	
今後の方向性	
<p>★ 町民体育館の指定管理者である NPO 熊野健康スポーツ振興会と連携し、各種スポーツ教室やイベント等の開催など、魅力あるコンテンツの開発など新たな視点も踏まえた町民のスポーツ・レクリエーション活動の充実に取り組む。</p> <p>○ 令和5年度に策定予定の「熊野町スポーツ推進計画」に基づき、町民、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、筆の里スポーツクラブ、学校、民間事業者、行政が一体となり連携・協力を行い、町民の誰もが「する」、「みる」、「支える」、「知る」ことでスポーツを楽しみ、親しめる環境づくりに努める。</p> <p>○ 町内小中学校の体育科担当教諭等を中心とした「体力向上推進協議会」を設置し、児童生徒の体力の向上や、自ら進んで運動に親しむ資質・能力の定着に取り組む。</p>	

点検・評価対象事業

スポーツ振興事業

スポーツ振興事業（スポーツの振興）

1 令和4年度の目標

スポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、中長期的な視野に立った「熊野町スポーツ推進計画」を策定し、スポーツ振興体制を図るとともに、幼児から高齢者までが参加できるスポーツ教室、イベントを開催することにより、町民の体力づくりや健康づくりを推進する。

また、既存のスポーツ・レクリエーション施設の適切な管理運営を図り、施設の良好な利用環境を維持する。

2 令和4年度の事業(取組)実績

○ NPO 熊野健康スポーツ振興会を指定管理者として、熊野町体育施設（町民体育館、町民グラウンド等）の管理運営を委託するとともに各種事業の実施を支援することにより、子どもから高齢者まで、誰もが体力、年齢、目的等に応じて親しむことができる各種スポーツ教室やイベント等を開催し、町民のスポーツ・レクリエーション活動の振興に努めた。

(1) 総合型地域スポーツクラブ（筆の里スポーツクラブ）の運営

(2) スポーツイベントの開催

熊野駅伝 参加者：420人 スター駅伝 参加者：1,064人

(3) 各種講座の開催

(4) 社会体育施設の整備（熊野町民グラウンド LED 照明改修工事）

・町民グラウンドのナイター照明を、省エネ・環境に配慮した LED 照明に改修

○ 町民誰もが関心・適性に応じてスポーツを楽しめる環境づくりを具現化するための「熊野町スポーツ推進計画」（案）を策定した。

3 達成事項（成果）

	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	目標値
筆の里スポーツクラブ 会員数	912 人	839 人	783 人	731 人	950 人
体育館等スポーツ施設 利用者数	153,693 人	76,219 人	70,628 人	104,080 人	170,000 人
スポーツ少年団 団体数	13 団体	13 団体	13 団体	13 団体	13 団体

4 分析・評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響により各種スポーツイベントの開催が困難な状況が続いたが、令和4年度は熊野駅伝や新春スター駅伝を実施するなど、感染対策を講じたうえでイベントを開催することができた。
- 一方で、筆の里スポーツクラブ会員数は、新型コロナウイルス感染症の感染対策による外出控え等の影響もあり、令和4年度においても減少した。
- 体育館等スポーツ施設の利用者については、令和2～3年度はコロナ禍による落ち込みがあったものの、令和4年度は回復傾向にある。
- 町民グラウンドのナイター照明をLED化したことにより、夜間照明照度が各段に向上し、施設利用環境の改善が図られた。今後、更なる利用者増につながることを期待できる。

5 自己評価

【総合評価】 B 期待どおりである

6 今後の方向性

- 町民体育館の指定管理者である NPO 熊野健康スポーツ振興会と連携し、各種スポーツ教室やイベント等の開催など、魅力あるコンテンツの開発など新たな視点も踏まえた町民のスポーツ・レクリエーション活動の充実に取り組む。
- 令和5年度に策定予定の「熊野町スポーツ推進計画」に基づき、町民、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、筆の里スポーツクラブ、学校、民間事業者、行政が一体となり連携・協力を行い、町民の誰もが「する」、「みる」、「支える」、「知る」ことでスポーツを楽しみ、親しめる環境づくりに努める。

7 評価委員による評価

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(4段階)	B
<ul style="list-style-type: none">● 少子高齢化の影響を最も受けやすい分野であろう。コロナ禍も大いに影響していると思われるが、前向きな推進計画のもと、少しずつ町内のスポーツ振興は進んでいると思う。● 近い将来、中学校の部活動も地域とするような動きがある。どの年代も生き生き体を動かして、健康管理ができればよいと思う。● スポーツの振興のまちづくり指標「総合型地域スポーツクラブ会員数」：目標値 (R7) 950 人、「体育館等スポーツ施設の利用者数」：目標値 (R7) 170,000 人、「スポーツ少年団の団体数」：目標値 (R7) 13 団体が設定されている。その目標値をどのように達成していくのかについて、新たに策定される「熊野町スポーツ推進計画」を踏まえて、「今後の方向性」を示していただきたい。		

8 指摘事項を受けての改善

- 新たに策定する「スポーツ推進計画」を踏まえ、NPO 熊野健康スポーツ振興会や各種団体との連携により専門的な知見も活用することで、目標値達成に向けた施策の検討に取り組んでいく。